

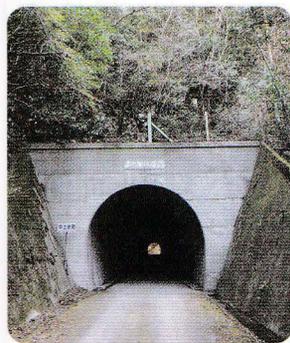


四万十町

町内「ぶら〜り」散策

# 飯ノ川

はんのかわ



トンネルを抜けると太平洋が望める

**東** 又の本堂交差点から県道325号を東に行く。やがて県道は志和峰方面(県道326号)との分かれ道で左へカーブする。その辺りが弘見地区で、さらに行くくと小さな小さな峠を経て新たな集落へと入る。飯ノ川である。

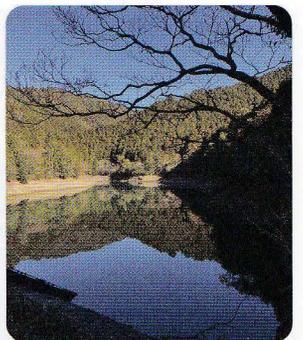
まっすぐ伸びる県道に沿って長細く、そして緩やかな傾斜になっていて、日当たりは抜群と言って良い。ここ飯ノ川には現在、31世帯、56人が暮らしている。

地区の南側に連なる山林の向こう側が志和峰で、志和峰を貫く県道326号は志和へと向かい、ここ飯ノ川を貫く325号は中土佐の上ノ加江へと繋がっている。聞くところによると、昭和30年代あるいは40年代までは、上ノ加江から海産物の行商に来ていたという。魚介類や塩など農産物の物々交換が盛んに行われていたようだがとうかがった。なるほど、地区の端にあるトンネルが中土佐との境で、そのトンネルを抜けて少し行くだけで視界に太平洋が広がり、その昔は「海の人」との交流が

盛んだったのであろうということが容易に想像できる。

そもそも、飯ノ川は、隣の弘見村から移り住んだ人たちによって開墾されたのではないかとされている。田畑を耕作するための水は、周囲の山からの谷水を利用してはいたが、それでは十分とはいえず、当時から農業用水の確保に苦労した村だったようである。しかし、昭和7年、土地改良事業によってつくられた傘松池によって、劇的に農業用水事情が改善されたのであった。傘松池は、もちろん今も現役の農業用ため池として活躍していて、飯ノ川と弘見の両地区の田を潤している。管理している水利組合も「弘飯水利組合」というのだそう。旧弘見村とのつながりは今も強い。

さて、飯ノ川地区の産土神は、北野天神宮である。その名の通り、京都の北野天満宮(天神さん)からの分祀である。また、戦国期の記録には「宝泉庵」というお寺もあったようだが、江戸時代にはすでに廃寺になっていて、跡地には小さなお堂が残っているという。



傘松池は昭和7年に作られた

町のうごき		人口		前月比		出生		死亡		転入		転出	
男	8,154	-9	男	1	11	9	8						
女	9,049	-8	女	2	13	18	15						
計	17,203	-17	計	3	23	27	23						
世帯数	8,525	-1					(12月中の届出)						
窪川地域	12,181人	大正地域	2,395人	十和地域	2,627人								

四万十川の 水質状況		適正值(mg/l)		1月11日	
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下			
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下			
アンモニウム	≤ 5.0	0.113			
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.15			
化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以下			

調査：大正(吾川)  
資料：四万十高校自然環境部